

「垂井の里 和賀川と松林」の再生に向けて ーマツノザイセンチュウ抵抗性アカマツコンテナ苗を植栽ー

1 「きたかみ景観資産」に松くい虫被害発生

北上市和賀町長沼の和賀川河川敷のアカマツ林は、景観資源を維持・改善・継承する活動を認定する「きたかみ景観資産」に「垂井の里 和賀川と松林」として登録され、地区住民が刈払い等の森林整備を行っています。

平成24年春から、このアカマツ林に松くい虫被害が発生し、今年11月までに120本のうち56本が伐倒・焼却されました。

2 マツノザイセンチュウ抵抗性苗の植栽

昨年の秋、地元自治会、北上市、花巻農林振興センターで松くい虫被害対策について検討した結果、被害木の駆除とともに、マツノザイセンチュウ抵抗性アカマツ苗の植栽によって松林の再生を図ることとなりました。

そこで、平成25年12月3日、マツノザイセンチュウ抵抗性アカマツコンテナ苗の植栽研修会を開催しました。

自治会、北上市、花巻農林振興センターから16名が参加し、1,000本/haの植栽密度で100本の苗を植栽しました。



植栽作業を行う前に、農林振興センター担当者が苗の特徴等について説明を行いました。

コンテナ苗の特徴については、植栽効率の高さ、植栽期間の長さ、省力的な地寄せと低密度植栽による造林コスト軽減の可能性等を説明し、マツノザイセンチュウ抵抗性については、岩手県林業技術センターが試験を行った結果、平均生存率が54%で従来の苗木より1.7倍改善されていること、また、精英樹でもあるため通直性や樹高の高さ等形質も良好であること等を説明しました。

植栽終了後、参加者からは、「植栽が簡単で思ったより時間がかからなかった。」「コンテナ苗だから今の時期に植栽しても大丈夫なのか。」「今後も植栽を続けたい。」等の前向きな感想や質問の声が上がりました。

3 今後の展開

今回植栽を行った面積は枯損面積の3分の1程度なので、来年度は北上市の緑の募金事業を活用して苗木配布を受け、引き続き抵抗性苗の植栽を行う予定です。

